

第 13 回 燃料デブリ取り出し専門委員会 議事要旨

日 時：平成 28 年 11 月 10 日（木） 16：00～18：00

場 所：原子力損害賠償・廃炉等支援機構 第 2 大会議室

1. 第 12 回燃料デブリ取り出し専門委員会 議事要旨（案）確認

NDF より、2016 年 9 月 26 日に開催された第 12 回燃料デブリ取り出し専門委員会の議事内容を記載した議事要旨について確認した。

2. 燃料デブリ取り出し方針の決定に向けた取組の考え方について

NDF より、2016 年 10 月 26 日に開催された第 18 回廃炉等技術委員会における議事のうち、燃料デブリ取り出し方針の決定に向けた取組の考え方についての内容及び議論について紹介した。

3. 燃料デブリ取り出し方針の決定に向けた戦略的提案について

NDF より、燃料デブリ取り出し方針の決定に資する要件について、戦略プラン 2016 に基づき説明した。

4. 燃料デブリ取り出し工法実現性検討の現状

NDF より、燃料デブリ取り出し方針の決定に関する要件に関連する、工法実現性の評価に関する検討の現状について説明した。

専門委員からの主な意見は以下の通り。

- 耐震評価については、福島第一原子力発電所の事故後の現状を踏まえ、合理的な評価方法自体についても議論すべきである。
- 燃料デブリを取り出す技術については、現在適用可能と思われる技術を様々な角度から具体的に検討し、最適な技術を選択すべきである。今後実現性を具体的に検討していく中で、そもそも評価項目も多いのでシステマティックな評価方法で実施すべきである。
- 安全の観点で、燃料デブリ取り出し作業自体に限らず、この作業で発生する廃棄物の搬出、保管の動線に関する具体的な状況を想定して評価することが必要である。
- 工法に関する検討では、一つの号機に対して上と横の両方向からアクセスすることが必要となる可能性も検討すべきである。その際には、各々の方向の作業のみを考えるのではなく、両方向の作業をワンセットで検討する必要もある。例えば、片方向からの作業を行った結果、作業後に汚染分布が変わる可能性もある。
- 臨界は、燃料デブリ取り出し作業時における公衆被ばくや作業員被ばくに繋がるリスク因子であるが、臨界の程度でその大きさは異なるものである。そのため、臨界が発生した際にはどの程度の影響があ

るのか評価し、問題になる程度とその様相を認識することが大切である。

- 燃料デブリ取り出しに関連するリスクの推移、すなわち、現状状態のリスク、デブリを取り出す際に一時的に発生するリスクの増分、及びデブリを取り出した後の状態のリスクを定量的に評価する必要がある。リスク指標としては、例えば、公衆被ばくが考えられる。

以 上